

3学年通信

Dreams come true

山形県立米沢興譲館高等学校

3学年通信 58号 通算 238号

2017. 9. 20 (水) +119点

式 辞

黄金色の稲穂が一面に広がり、ここ置賜の地にも豊穰な実りの季節を迎えました。



本日ここに、同窓会会長「小嶋 彌左衛門」様をはじめ多数のご来賓のご臨席を賜り、山形県立米沢興譲館高等学校 創立131周年記念式典をこのように開催できますことは、本校にとりまして大きな喜びであります。

昨年は、創立130周年という節目の年にあたり、県や関係教育機関、歴代の校長先生方など、多くのご来賓の皆様のご列席のもと、心温まるお祝いの言葉を沢山いただきと共に、

本校生徒の制作によるシンボルマークの発表、さらに生徒の作詞・作曲による記念祝典歌「明日に紡ぐ」を披露するなど、興譲館らしい心に残る式典となりました。ご支援を頂きました皆様に、改めて御礼を申し上げます。

さて、年に一度、この式典において、長い歴史と伝統を誇る本校が、どのような願いが込められ、どのような目的をもって創設された学校なのか、その建学の歴史を、今ここに学ぶ皆さんと共に振り返ることは、今ある自分を見つめ、明日へ向かう自分の未来を切り拓くためにも、大変意義深いものがあると思います。

本校は、新たに制度化された中学校令に基づき、修業年限5年の県立米沢中学校として再出発した

明治19年(西暦1886年)を創立の年とし、本日、131周年の記念の日を迎えました。さらに、元禄10年(西暦1697年)の米沢藩 学館まで遡れば、321年の年を数えることとなります。

西暦1776年、アメリカ合衆国独立宣言の年として歴史的に知られているこの年、安永5年に、第9代米沢藩主 上杉治憲、鷹山公が学館を再興し、生涯の学問の師であった細井平洲先生

が、「興譲館」と命名していた講堂で、初めて講義をされた9月19日を創立記念日と決めました。

本校創立記念日の由来であります。

米沢藩の改革を図るために、優れた人材の育成機関としての役割を担い再興された藩校「興譲館」。その「興譲」という語の出典は、儒学の経典の一つ『大学』の「一家仁なれば一国仁に興り、一家譲なれば一国譲に興る」に由来し、本校の校庭にはその原文が記された石碑が建立しております。平洲先生は、「建学大意」の中で、「徳は遜譲より美なるはなし。不徳は驕慢より悪なるはなし。館を「興譲」と名付けしこと、美德を修し、悪徳を除せんが為なり」とし、さらに「譲を興すとは恭遜の道を修行さすることなり」とも述べています。人としての思いやりや慈しみの心、他を尊ぶ謙

虚な心を修めることにより、国全体に仁や譲の心が広がり豊かに繁栄することを願い、命名されたのだと思います。

その後、明治以降の旧制中学時代、敗戦後の新制高校時代には、時代の荒波に揉まれながら校名を次々と変えながらも、藩校時代の建学の精神と校風を失うことなく、地域の信頼と期待を受けて歩んで参りました。

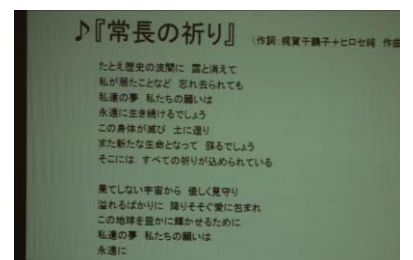
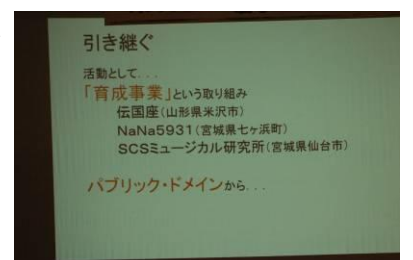
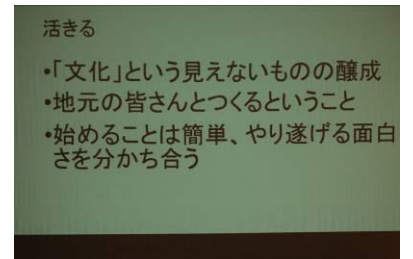
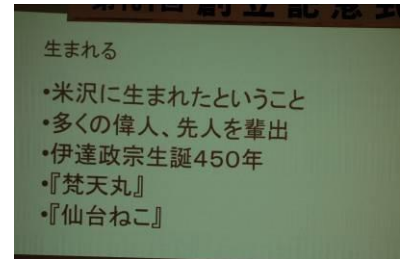
校名が現在の「山形県立米沢興譲館高等学校」となったのは、創立七十周年を迎えた1956年、昭和31年のことです。戦後、新制高校となった本校は、昭和22年「山形県立米沢第一高等学校」、昭和25年「山形県立米沢高等学校」、昭和27年「山形県立米沢西高等学校」と三度校名を変えるも「興譲館」の文字はなく、創立70周年を機に、「興譲館」の文字を入れた校名を切望する同窓会、地域住民による大陳情活動により改称されたものでした。式典では、「興譲館」の校名復活とともに、本校大正3年卒業の児童文学者 浜田廣介さんが作詞された新しい「校歌」と、今壇上に置かれている「校旗」が制定されるなど、新生興譲館を宣言するものとなりました。

この時、興譲館の精神とは何か。受け継がれた校風、同窓生の心の支えであるというが、陳情書にもその精神が何であるか一言もありませんでした。そのような中、時の「千喜良 英乃助」校長先生が「興譲館精神」と題する一文を70周年記念誌に寄せられました。その中で、藩祖 謙信公の求めた道を説き、中興の祖 鷹山公の人となりを述べ、生命を尊ぶ根本精神を第一義とし、己を無にして職務に忠誠であることを第二の義と説き、理を理に終わらしめずこれをいかに実行するか、その道を探究し実行するというを第三の義と説かれました。その名文は、今日の興譲の精神の拠り所となるものであります。

そしてその30年後、現在の校舎に全面移転となった昭和62年、創立100周年を機に、興譲館精神について様々検討され、校歌にも謳われている「人みなを命を崇め わが力わが誠 世のために尽くさん」を勘案しながら、現在の3つの精神、一「自他の生命を尊重する精神」、一「己を磨き 誠を尽くす精神」、一「世のために尽くす精神」に明文化され、本校の教育精神として掲げられ今日に至っております。

この「興譲の精神」のもと、多くの先輩が、経済界、法曹界、行政や政界、医学・生物、農業や工業、教育、芸術・文化など様々な分野で、各時代をリードし社会に大きく貢献する人材を多数輩出してきました。

いま社会は、急速なグローバル化や少子高齢化、IoT や人工知能などの劇的な進歩により、私たちのこれまでの生活様式や価値観をも変える未来社会が予測されています。先の見えない時代にあつて、未来を創造し真に豊かな世界、暮らしを創るために、今ま



さに皆さんの若い力が期待されているところです。興譲館高校での3年間の学びは、その礎をつくる場であります。

創立130周年という節目を迎えた昨年は、改めて興譲館のこれまでを振り返り、全職員で、これからあるべき興譲館の姿や使命について議論を重ね、目指す生徒像に加え、これからの社会に求められる資質・能力を育むために「興譲館版 コンピテンシー」としてまとめられました。困難な課題に、自分ではできるという「自己効力」を高め、「課題発見能力」と「解決力」を備え、世界の人々と協働して果敢に挑戦し続け、将来新たな文化を創造する人材の育成と定めました。

皆さんには、時代の風をしっかりとみつめ、豊かな人間力を育み、高い志を持って、ありたい自分、なりたい自分をめざし、世のため人のために努力することを厭わない心あるリーダーとなって未来を切り拓いていただきたいと期待しています。

ところで皆さんは、鷹山公・平洲先生の時代から300年以上の時を越え、時代がいかに変わろうと脈々と受け継がれてきたこの「興譲の精神」を、どんな時に意識するでしょうか。

赴任して5ヶ月あまりが過ぎましたが、私は、皆さんが「文武両道」日々の授業を第一に、運動部・文化部の活動や自治会活動に一生懸命に取り組む姿、特に、さわやかに交わす挨拶や友達と談笑する姿、校内の至る所で時間を惜しみ学習する姿、そして生徒の質問に先生方が熱心に応える姿は真に本校の「学則」そのものと言えます。限られた時間・限られた施設の中で創意工夫しながら仲間と取り組む部活動、クラスの団結と個性溢れる体育祭や合唱コンクール、興譲祭、入学式や壮行式での自治会・応援団の活動、など、「仲間と共に学び、共に励まし合いながら己を磨く皆さんの姿に、連綿と受け継がれてきた「興譲の精神」を垣間見るような気がします。おそらく皆さんは、そのことを実感することは少ないのではないかと思います。しかし、そんな日々の一つ一つの皆さんの努力の積み重ねが、結果として難関大学や高いレベルでの国公立進学実績を上げたり、全国大会で入賞を果たしたりということに繋がっているのだと思います。このような皆さんの一つ一つの実践が、新たな米沢興譲館高校の価値をつくり、その一つ一つが興譲館高校の伝統を築き、未来へと繋がってゆく」のだと思います。

本日は、この後、先輩による講演が予定されています。伝統校ならではのことであります。

興譲館にあることを、皆さんと共に感謝しつつ、創立記念日の式辞といたします。



今日は創立記念式。大切な式典なのに「校章を付けていない」生徒諸君が散見されて始まる前からムカムカしていた。先週「式典の件をメールしようかな?」と思ったのだけれど「3年生なのだから大丈夫!」と思った自分にもムカムカしている。この辺の加減が難しい。もうすぐ巣立つ諸君に自立のためと敢えて我慢することと、伝えなければならないことの狭間。きっと、これは諸君の保護者の皆様も同じ気持ちだと思う。難しいですね。この加減(子の加減?)。さて、校長先生の式辞を掲載させて頂きました。私、講演会等には必ず「手帳を持参」してメモします。今回の目標は横戸校長先生及び小嶋同窓会長の式辞、OBの廣瀬純さんのご講演3つのフルコンプリートでした。校長先生の式辞は約3000字となりましたが、実際にお聴きした生徒諸君は読んでみて如何でしょうか。ほぼ忠実に再現できたと自画自賛しています。「一字一句漏らさずに」は成せば成るのです? 式辞や講演は(授業もそうだけれど)その場では「そうだよな!」ということも、時間が経つにつれて忘却してしまいます。最近は年をとったせいかな、それを「もったいないな」と思うようになってきたのです。今日、校長先生は「米興の歴史と諸君に期待すること」という素敵なお話を頂けると予想していて、きっと忘れるだろう(または最果ての地に旅立つだろう?) 諸君に「反芻」してもらうためのコレです。来年大学で(または将来でもイイのですが)「米興ってどんな高校?」と聞かれたとき、話ができるといいと思うから。また、校長先生は「学長」なのですから、米興のすべてはここから始まるということ。それは生徒諸君も教職員の我々も同じこと。山口和士先生が言われた「トップの名前を知っているか?」は名前を当然として、どのようなお考えでどんな実践をされているかを知りなさい。アタナの母校となる大学なのだから。というメッセージだと思う。就職も同じこと。大切なのは会社の理念。賃金や労働条件だけでなく、そんなことも気にしてほしい。

さて、17日(日)夜「きっと送ってくれるだろうな」と期待してパソコンを開くと、確かにそこにT氏からのメールがありました(前号参照)。前日の同窓会総会&懇親会。このような素晴らしい組織があること、そして800余名のOBが毎年参加されていることを、卒業を目前に控え家庭や地域を離れようとしている3年生諸君に「伝えたい!」という衝動に駆られたのです。その思いを強くした丁度そのとき、笑顔のT氏と会場でお会いしたのです。出会いは不思議です。「会いたい!」と熱望するときや、「会いたくないな」と後ろめたい気持ちがあるときなど、なぜか会ってしまいます。これは偶然でしょうか、必然でしょうか。確率論で考えるのは色気が無いし、スピリチュアルに浸ると飛躍し過ぎるので、今回は「そんなことままあるね」という位にして戻かな(脱線厳禁!)。そう、私このお題「今が旬のT氏に絶対書いて欲しい!」そう思っていたときの出会いだったので。「そうですね」と微笑んでくれたT氏でしたが、上記のような確信が私にありました。本当に凄い人です。常に期待を超えることを部活動・学年・米興に成して頂きました。そして、私の至らぬことをフォローして頂きました。このような素敵な出会いは、T氏はもちろんですがこの2年余にキラメク宝石のごとく無数にあり私の宝物なのです。その第一は、3年生諸君であることは言わずもがなですが、アナタの兄弟やご友人、ご家族のお友達にまで出会い知り合うことができたのです。私は、T氏のいう「第四の領域」には程遠いですが、「家族」や「地域」もまだまだです。しかし、職場というカテゴリーで「できたこと・得たこと」に、今も大きな喜びを実感しています。

結びに。大事なことなので書く。センター試験願書は「今日が受験料振込期限」そして「22日(金)」まで領収証を裏面に貼りコピーを取って担任へ提出。担任の先生は本当に忙しい。それを知る諸君は「ゆとりを持って・ミス無く・朝のうちに提出」すべき。米興全体のことである。甘え厳禁!**終**